



師の活躍「次は自分」

ひろいもののおすとわけ

大島 真寿美

街中から小さい本屋さんか、じわじわと姿を消していくなか、身近でもっと本と戯れる機会を……と長らく、神戸で定期的に読書会やらイベントやらトルやらを自ら企画して開催していた作家の福田和代さん(近刊の私のおすすめは『皇の一族』)がオーナーとなりの、三宮駅近くに常設のスペース「デジタル・ケイブ」をいきなりオープンしてしまいました。オフィスビルの地下にある秘密基地みたいなお店で、普段はカフェとして運営していくそう。偶然にもオープン初日に関西にいたので、早々にお邪魔してきたのですが、広さといい、設備といい、ユニークさといい、たった半年で準備したとは思えない充実ぶり。すでに今後の企画もいくつか決まっているのだとか。

福田和代さんで、エンタメ作家の鑑か、つてつらい、連載数も多いし、ジャンルも多岐に亘り、もちろん質も高いし、よくこんな書き手だなあ、といつも感心していたのですが、虚構を構築することに長けているだけでなく、現実世界での構築能力も高かったみたい。それとも、並外れたバイタリティーなのかな？ とはいえ、その根底にあるのは、本の面白さ、読書の楽しさを伝えたいという、本気の一途な思いなので、そこが私にはとても嬉しいのです。私にはとても嬉しいのです。たった一冊、面白い本の出会いがあれば、きつかけが一つあれば、この豊潤な本の海に漕ぎ出せて、宝の山と戯れることができれば、それを提

本と出会える秘密基地

供する場所をここに作るよ、という、強くて、熱い思い。私も先日、猫町倶楽部というところが主催する読書会にゲストとして参加してきたのですが(実に面白かった)、そこでも、本の海に宝の山をみつけて、心から読書を楽しんでいる人たちに大勢出会いました。読書会がきっかけで、本の楽しさを知った人がどれほど多いのかも主催者の方に詳しくうかがいました。本とは自然に出会ったもの、と思いましたが、本が昔ほど身近な存在ではなくなってしまうと今、こういった機会や働きかけがこれからはもっと大事になってくるのかも。であるからこそ、私も、デジタル・ケイブでそのうち何か、読書会みたいなことがやれたらいいなー、などと思っていたりもするのです。(作家)

諏訪さん、大島さんのコラムは次回8月2日掲載

諏訪哲史の ストーン 経

い、二百万の香港市民が立ち上がりました。もし国に自由を奪われた時、今の僕らにあの気概が真似できませんか。中国では政権を批判すれば逮捕です。自民党も本音ではああいう強権を欲しています。

憲法と法律は別物です。国民に悪さをさせないよう、僕らを縛るのが法律。政治権力に悪さをさせないよう、彼らを縛るのが憲法です。その憲法の戒めを窮屈だと嫌がる自民・公明・維新の各党が僕らを誘導し、憲法を書き換え無力化しようとしています。

皆さん、政権を担う自民党の改憲草案をご存じですか。戦争を放棄すると言いつつ他国と協同の戦争には加担し、個人の自由や人権は、国家の利益や秩序に反しない時だけ認めてやる、そういう悪夢のような内容なのです。

先月、中国当局の圧政に抗

現憲法は、世界にも稀にみる優れた憲法です。こんな奇跡のような憲法を、なぜ日本が持っているか解りますか。先の大戦で大勢を殺し、また二度と子孫にはさせない、と先人が固く誓ったからです。そこで、当時の国際的知見も動員し、将来何があっても政権を再び加害に走らせぬよう、何重にも工夫されたストッパーが日本国憲法です。これは世界が「気高すぎる憲法だが、守れるものなら守ってみろ」と日本へ挑戦した、人類初の希望の実験でした。施行から七十二年、日本

